



「富士山百景」 荒天のおくりもの

VOL. 2650

Rotary International

「品格そして実行」

第2650回例会 2019.5.8

ソング「君が代・それでこそロータリー」



富士ロータリークラブ WEEKLY

<http://fuji-rc.com/>

例会日:毎週水曜日 12:30  
 例会場:ホテルグランド富士  
 TEL(0545)61-0360  
 事務所:〒416-0913 富士市平塚本町8-1  
 ホテルグランド富士内  
 会長:植田 眞晴  
 副会長:吉野 榮司  
 幹事:佐藤 昌久  
 副幹事:吉田 浩之

会長挨拶

植田 眞晴



皆様こんにちは  
 いよいよ「令和」が始まりました  
 「令」という文字は2通りの書き方がありますがどちらが正しいでしょうか。文化庁によると字の形の違いは習慣によるものでどちらでも良いとの事、小学生の頃 漢字テストで苦労していた私は「そんなもんだったのか」と思って拍子抜けしてしまいましたが・・・

新天皇の徳仁（なるひと）天皇はとても凛々しく誠実な方と テレビからそのお人柄を拝見させて頂き「令和」という時代にとっても期待しております。

皇族の場合「皇位継承」と言いますが、会社の社長の場合は「事業承継」と言います。ちょっと気になったので調べてみますと「継承」とは身分・権利・義務・財産などを受け継ぐ事に対し「承継」とは地位・事業・精神などを受け継ぐ事と書かれておりました。これも法律用語のひとつですので詳しい事は本野先生か塩谷先生に聞いてみて下さい。

「事業承継」と言えば この連休中 家内の実家のある諏訪に行ってきたのですが、諏訪と言えば 温泉に 酒にそして蕎麦です。中でも私の大好きな蕎麦屋さんは最高です。が、先日久し振りに行きましたら いつもの年配の店主はおらず その息子夫婦だけで切り盛りしていて 注文した天ぷら蕎麦は最悪、腰が無くてのど越しが悪いばかりか汁はぬるくて おまけに乗っかってる天ぷらまで子供の小指程、一体どうしちゃったんだと家族3人がっかりして店を後にしたわけです。おやじさんの時とは全く違う味になってしまっておりました。

昨日 厚原にある「玄庵」という蕎麦屋さんに行き行って天せいろを食べてきましたが、これこそ蕎麦の味だと感じました。ちょうど客が引けたあとだったからか 食事が終わるとおかみさんは愛想良くコーヒーを出してくれて しかも帰り

には山で摘んで来た花までくれました。これこそが心のこもったサービスだなーと家内と二人すがすがしい気持ちになりました。

我々も常にお客様の立場に立って仕事に取り組んで行かなければならないと改めて勉強になりました。それと同時に「事業承継」の難しさもお蕎麦屋さんから学ばせて頂きました。

幹事報告

佐藤 昌久

①例会変更のお知らせ

- 新富士RC 6/4 休会
- 長泉RC 5/29休会
- 裾野RC 5/17・31(メイク無)
- 沼津北RC 5/31(メイク無)

②お知らせ

- ・5月のロータリーレート 112円
- ②会報回覧 御殿場ロータリークラブ

親睦委員会

太田 義隆

★私のスマイル

- 瀧 真砂人君 富士ニュース55周年広告、ご協力いただきありがとうございます。
- 佐野家弘君 きれいなお花を有難うございました。
- 川村統勇君 連休、子供、孫達と沖縄旅行を楽しんできました。

出席報告

太田 義隆

2650回

会員数	計算会員数	欠席者数	出席者数	出席率
33名	33名	6名	27名	81.8%

2648回 4/10確定

会員数	計算会員数	欠席者数	出席者数	出席率
33名	33名	10名	24名	72.7%

(他のRCへの出席者氏名) 加藤良彦君

例会プログラム予告

- 5月22日 裸会 熱海 大観荘
- 6月5日 夜間例会 (内容・場所未定)

# 2018-2019年度 R12620地区 各委員長による 地区研修・協議会の報告(3)

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 榮賀 明



日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給して支援する民間の奨学団体です。

1952年、日本で最初に設立されたクラブ、東京ロータリークラブが、日本のロータリーの創始者と呼ばれる

米山梅吉氏の功績を記念して始めた国際奨学事業が、国内の全ロータリー地区の合同事業に発展したものです。1967年7月1日、文部省(現在の文部科学省)の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。その後新公益法人制度が施行されたことに伴って公益財団法人への移行申請を行い、2012年1月4日付で新たに「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」としてスタートしました。多くの会員による永年のご支援のおかげで、2017年7月1日、財団法人設立から50年という節目を迎えることができました。

奨学生は寄付額で決まります。2019学年度採用枠は850人です。寄付が増えれば、より多くの奨学生を採用できます。当地区の目標額は、普通4,000円、特別12,000円で合計16,000円です。「自分たちが出している寄付金は、どのような留学生に使われている」と実感して頂く為に必要なのは奨学生・学友による卓話ですので是非企画をお願い致します。

米山奨学セミナーのお知らせ

- ・日時：2019年7月28日(日)
- ・場所：米山梅吉記念館
- ・13時より
- ・出席対象者：クラブ米山委員長

## 卓話

富士市民生児童委員協議会  
神戸・青葉台地区  
西木の宮町地区担当

杉本 篤様



— 覚悟して地域に生きる —

《地域に暮らせていただく》

民生委員・児童委員を委嘱されて今、私が関わった3人の一人暮らし高齢者が、この時代にこの住み慣れた地域

を去って逝った。その一人ひとりの人間が、地域で孤独に生きている姿を思うとき、およそ34年を市役所職員として過ごした自分自身が、如何に市民一人ひとりの声に耳を傾け、心を配って居なかったのだろうかと当時に思いを致すのである。(途中割愛させていただきます)

《市民の声があなたに聴こえますか》

私が市役所に就職して新人職員研修の基調講和の冒頭で、講師さんから「皆さん、目を閉じて静かに心を落ち着かせて、この役所の窓ガラス1枚外の市民の生活の音が、いつもあなたに聞こえていますか？そして、その声に対して、一生懸命応えようと努力していますか」私の公務員としての第一歩を踏み出す時に「自治体職員として生きる」ヒントを示唆してくださった励ましの一言葉であり重みのある言葉であった。(途中割愛させていただきます)

《不均衡な役所組織の力学に挑む！一市民として》

職員が乗り越えなければならない、それはカウンターの話ではなく、市職員あるいは自治体職員もまた一市民であることの重要性を常に心に置くことである。このことが、私の自治体職員としての生き方、仕事の考え方・やり方に大きく関わることになる。(途中割愛させていただきます)

《地域を超えて先駆する人々とのネットワークづくり》

その機会は研修担当になって2年目にやって来た。全国に広がりつつあった革新市長会の呼び掛けによる革新自治体研修担当者研修会である。合宿で行われた研修会は、まさに同じ課題に果敢に取り組む職員群による侃々諤々の議論、情報交流と実践事例の相互研究の場であった。この研修会をきっかけにして私の人的なネットワークは一挙に広がり、神奈川県自治総合研究センターでの研究チーム活動や自主研究グループ研究発表大会など、自治体職員による自主的な政策研究活動に出会うことができた。(途中割愛させていただきます)

《目標は、生き活きとした組織づくり》

風通しの良い、町の未来や政策が語り合える生き活きとした組織づくり、職場づくりを進めるために職員研修としては、先ず、組織の一番上に立つ三役・部長職が率先して学ぶことからスタートしたのである。研修機会に恵まれない…人々からは多少の反発もあったが、内容の濃い土日の二日間を自然豊かな高原の施設で豪華な講師陣と過ごしていただくには、多少の犠牲も払っていただきたいとご理解いただいた。(途中割愛させていただきます)

《動き始めた管理職動力エネルギー》

実は、この合宿研修に入る前段で、厳しい研修を実施したのである。それは、静かな池に石を投じるように、全職員の意識改革への最初のショック波は部課長全員を対象とする管理者研修であった。研修実現のため、三役と講師及び筆頭部長の了解の上、古参の部課長の協力を得て、研修の意図するところ、目的を「行政に対する市民の切実な要請にこたえるため、自治体のあり方全体を根本から見直し、改革意識と経営理念を全体討議の中から身につける。」として実施することを確認したのである。この後…《ショック第2波は女子力》

《研修担当者ネットワークが拓く世界「自治体活性化研究会誕生」》

《自治体文化に新しい流れの道を築く実践者でありたい》

《自治体職員の活動のステージは庁舎の中だけではない》

と続きますが紙面の関係上割愛させていただきます。

編集者 加藤 良彦